

朝日新聞 × 立命館 2020 自分史講座

本講座は、ご自身の半生を振り返り、歩んできた軌跡を書き残したいと考える方を対象に、「自分史」作成の入門を学ぶことを目的としています。朝日新聞「自分史ノート」を教材とし、自分史作成の意義や書き方のコツなどを幅広く学びます。

会 場 立命館 東京キャンパス (東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー 8 階)

時 間 13 時 00 分～14 時 30 分 (1 時間半)

受講料 15,000 円 (全 5 回受講)

※教材費含む ※各回だけでの受講は受付けていません

定 員 30 名 ※最小開講人数 (5 名) を下回った場合、開講しない場合があります

CR academic
center of
RITSUMEIKAN

講 師 ・朝日新聞社 由衛 辰寿 (朝日新聞社パーソナルメディア準備センター 自分史編集委員)
・立命館大学 瀧本 和成 (立命館大学 教養教育センター長・文学部教授)

第 1 回

1/15 (水)

「自分史とは何か」

自分史を作るとはどういうことか。イラストレーターの山藤章二氏の『自分史ときどき昭和史』(岩波書店)、朝日自分史で実際に作成された本、朝日自分史で本をまとめた人たちの声を紹介しながら、自分史の魅力とツボを伝えます。

第 2 回

1/29 (水)

「自分史作りの第一歩、年表・構成作りのコツと実践」

自分史を作るにはどうすればよいか、をやさしく解説していきます。第一歩は、年表を作るところからはじまります。完璧に正確でなくてもかまわないので、いつどんなことがあったかを思いつくまにまとめていきましょう。

第 3 回

2/12 (水)

「文豪の自伝的作品・政治家の自伝を巡って一漱石、鷗外、青木周蔵一」

夏目漱石『道草』、森鷗外『大発見』、青木周蔵『青木周蔵自伝』を取り上げ、三者の比較を行いながら、作家や政治家が自伝(的)作品を書く理由や意図を時代的・社会的背景等を視野に入れながら追究します。

第 4 回

2/26 (水)

「自分史作り、文章のコツと実践」

4 回目は、これまでにねりあげてきた構成をもとに、文章を書いていきます。「その人にしか起こっていない、その人しか考えないこと、その人しか思いつかないこと」を読みやすく書くために最低限押さえておきたい要諦を伝えます。

第 5 回

3/11 (水)

「写真選びのコツと実践」

朝日自分史では文章だけでなく、写真や手紙などのさまざまな資料を収録して完成となります。写真を選ぶ際にはどんなことに気を付ければよいのか、プライバシーや肖像権、著作権はどう考えればよいのか、などを解説していきます。

R
RITSUMEIKAN

【お問い合わせ・お申込み先】(受付時間: 月～土曜日 9 時～17 時半)

立命館東京キャンパス 公開講座事務局

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー 8F

TEL: 03-5224-8188 ※お電話でのお申込みはできません。

FAX: 03-5224-8189

メール: tokyo-kz@st.ritsumeikan.ac.jp (公開講座専用)

URL: http://www.ritsumeikan.ac.jp/tokyocampus/course_guide/

